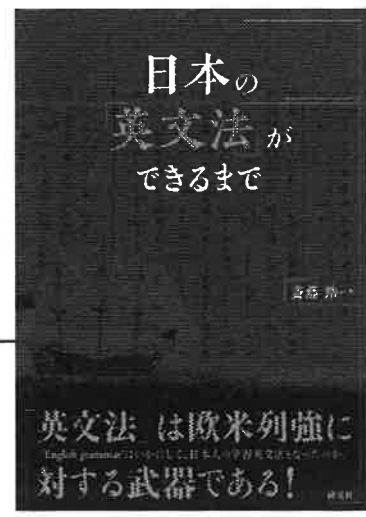


# 日本の「英文法」ができるまで



5月20日  
配本予定

斎藤浩一〔著〕

A5判 並製 (予)220頁 予価2,860円(本体2,600円+税10%)  
ISBN978-4-327-41106-0 C1082 / NDC:807

## 日本人の英文法は いかにして成立したのか

幕末に欧米列強から自国を守るために始まった英語学習において、なくてはならないもの、それは英文法であった。幕末から明治にかけて、日本人はどのように海外から英文法を受容し、それを作り変えて、自らに合った英文法の体系を完成させたのか。その後、当時の人々の英文法観はどのように変化していったのか。英文法による学習に異を唱える民間企業と擁護する英語教育界の反応も含め、「英文法」をめぐる歴史を丹念にたどる。

〈著者紹介／著者による他の著作等〉

斎藤浩一(さいとう こういち)  
拓殖大学政経学部准教授。東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻、博士後期課程を修了。東京海洋大学海洋工学部准教授を経て現職。専門は日本英学史。

主な業績として、「明治期後半から大正初期における英文法教育史：英文法擁護論と、「英語教育」内における理論化過程を中心に」(『日本英語教育史研究』28、2013年)、「英語界と戦争責任・戦後民主主義：中野好夫と市河三喜の衝突(1948年)への再解釈を通して」(『英学史研究』53、2020年)などがある。

〈類書〉

江利川春雄「日本人は英語をどう学んできたか ― 英語教育の社会文化史」(研究社、2008)

江利川春雄「受験英語と日本人 ― 入試問題と参考書からみる英語学習史」(研究社、2011)

## 目次

序章	はじめに
第1部	ヨーロッパにおける文法研究の歴史 ― 日本の「学習英文法」前史
第1章	ギリシア語文法からラテン語文法へ ― 古代～中世
第2章	規範英文法の確立に向けて ― 16～18世紀
第2部	「学習英文法」体系は いかに作られたか
第3章	日本人と英文法との出会い
第4章	本格化する英文法の「作り変え」 ― 幕末～明治初年代
第5章	英文法体系の進展 ― 明治10～20年代
第6章	「学習英文法」体系の完成 ― 明治30年代
第3部	「学習英文法」はいかに意味づけられたか
第7章	英文法の学習・教授法小史 ― 幕末～明治40年代
第8章	英文法排撃論の興隆 ― 明治30～40年代
第9章	英文法排撃論への反論活動 ― 明治30～40年代
第10章	「英語教育」の手段となった英文法 ― 明治40年代
終章	おわりに ― 中間的メタ言語となった「学習英文法」
あとがき	
参考文献	
索引	

新刊  
申込書

日本の「英文法」ができるまで

申込数

書店名(印)

予価2,860円(本体2,600円+税10%)

ISBN978-4-327-41106-0 C1082

冊

お名前

ご住所 〒

TEL

\*表示の価格は本体価格です。別途消費税がかかります。22.03